

○チャイコフスキー&ボロディン  
：弦楽四重奏曲 シュトイデ弦楽  
四重奏団 (カメラータ CMCD28  
236) ウィーンフィルのコンサ  
ートマスター、シュトイデ率いる  
カルテットがロシアの名作を録  
音。愛情たっぷり歌いあげた演  
奏にしばし憩いと夢を満喫。(諸)

○イタリアへの夢Ⅱ 太田光子、  
平井み帆 (ALM ALCD1124)  
ロッシ、チーマ、ベラルディとい  
った未知の作曲家の名前に構える  
必要はない。天衣無縫なリコーダ  
ーとチェンバロが17~18世紀イタ  
リアの秘曲たちをファンタジーの  
翼に乗せ天高く飛翔させる。(矢)

○ブルックナー：交響曲第0番  
D・R・デイヴィス (アルテ・ノ  
ヴァ SICC1459) 指揮者は現代  
米国の軽やかで快楽的で繰り返  
しの多いミニマル音楽が得意。音型  
の反復の多いブルックナーも同じ  
要領で素直に楽しむ。さらば、い  
かめしいドイツ精神主義。(片)

1981年に活動を開始したオーストリアのハー  
ゲン弦楽四重奏団が、設立30年の節目にある。  
ザルツブルクに生まれた4人の兄弟姉妹が結成  
したというユニークな背景もさることながら、  
若さのみでは語れない音楽性豊かな演奏で聴  
き手を魅了してきた、真の実力派である。

その後第2バイオリンが代わったが、今なお  
現代の音楽界をリードし続けている名門中の名  
門だ。来日の機会も多い。ドイツ・グラモフォ  
ンで古典から現代まで数多くの名盤を制作する  
一方、各人がソリストとしても活躍するなど、  
常に柔軟で意欲的な活動を推し進めてきた。

そんなハーゲンが結成30周年の記念アルバム

○田中カレン：クリスタリーヌほ  
か バッケ(2 L 074) 田中は  
ピアノを本当に知っている。趣味  
よく無駄なき書法が楽器を何とよ  
く鳴らすことか。三善晃や武満徹  
に近い初期からドビュッシーの続  
きみたいな近作まで。北欧の名手  
による魅惑のピアノ曲集成。(片)



○バッハ：ブランデンブルク協奏  
曲 クイケン (ACCENT KKC5  
138、9) =写真 老舗古楽団  
ラ・プティット・バンド、15年ぶ  
りの再録音。肩の力の抜けた縹緲  
たる風情の隅々に光る叡知が、6  
曲の個性を自然に立ちあがらせて  
ゆく。(矢)

○知られざる名曲集~ロマン派オ  
ーボエ協奏曲 インデアミュレ  
(カメラータ CMCD28208)  
シュンケ、フェルリンク、ライヒ  
ャら色彩豊かなドイツものから、  
オペラアリアもかくやと歌うイタ  
リアのベッリーニとドニゼッティ  
まで。両極端の表現が見事。(金)

○鉄オタクラシック~ピアノ曲編  
ハンゼルマン (キング KKC51  
14) 鉄道マニアに捧げるピア  
ノ小品を集めに集めたり31曲。白  
眉は、リストと並ぶピアノの名手  
アルカンによる超難曲。呼吸びっ  
たりの夫婦連弾によるオネゲルの  
パシフィック231も。(金)

○マーラー：大地の歌 ブンダー  
リヒ、フィッシャーディースカウ、  
クリップス (DG UCCG1542)  
1964年ウィーンでのライブ。名  
歌手の熱唱が特筆されるが、それ  
以上に圧倒的なのはウィーン生ま  
れの名匠クリップスの年輪。最後  
の「告別」の叙鬱感に涙。(諸)

をリリースした (myrios myr006)。ペー  
ーベンのラズモフスキー第2番のほか、モーツ  
ァルト、ウェーベルンを収めた1枚。新レー  
ベルからのリリースというのも話題だが、やはり  
何といても素晴らしいのが演奏内容。ハーゲ  
ンならではの説得力にあふれている。鮮度と同  
時に、プロフェッショナルとしての意地を見せ  
つけた空前の完成度を誇っている。いま一度新  
たな覚悟で出発点に立ち、これからの室内楽を  
リードしていく——そんな決意を聴かせるか  
のようである。

ますます熱く燃えるハーゲン弦楽四重奏団の  
現在である。(諸)

説得力あふれる演奏  
決意聴かせる完成度

片山杜秀、金澤正剛、諸石幸生、矢澤孝樹の4氏が合議で選びました。

◎特選盤 ○推薦盤 ♡個性派 ♣輸入盤